



俳句ゆめクラブ会報

2022年10月25日

第148号

幼子の背負ふリュックに秋の蝶 (4票) 長澤輝子
 天高し五十六号ホームラン (3票) 岡田時雄
 秋天へ佐原囃子の鳴り止まず (6票) 梅田ひろし
 古里は児らの声無しそぞろ寒 (3票) 岩松忠子

この処夜明けが遅く日暮れが早くなってきた、気温が低い日には師走並みなどとも、いよいよ今年も残り僅かだと身に染みて感じる日々である。

立冬ももう直ぐ、そうなるとやがて正月を迎える準備もぼつぼつと暮らしの中に入り込んでくる、こうした時に一年が経つのが早いと毎年思うものである。年月の経つのはどうにもならないが何とか自分の頭と身体だけは出来るだけ変わりなくあつて欲しい。

梅田先生の句

黎明のもう虫声の聞こえざる
 長堤を後ろ歩きや秋うらら
 秋天へ佐原囃子の鳴り止まず

梅田先生選

秋麗子の泥鰻頭ひび割れて
 秋草の埋め尽くしたる売地かな
 幼子の背負ふリュックや秋の蝶
 秋雨のゆるく密やか老いの耳
 古里は子らの声なくそぞろ寒
 柿照るや庭に農具の並べられ
 ライダーの風切る秩父路秋うらら

岩松忠子
 浅見法子
 長澤輝子
 小林健一郎
 岩松忠子
 宮島昭夫
 浅見法子

《入選》

西空を茜に染めて暮るる秋
 静かなる空に鳥声秋うらら
 露寒しメロンパン買ひ戻りたる
 各々に落葉さまざま降りそそぐ
 暮れなづむトーテムポール秋湿り

金木犀まこと宝石明りかな

溪谷へ龍のごとくに霧沈み

人群るる日曜ウォーク秋うらら

晩秋やまだ明るさの残る帰路

天高し五十六号ホームラン

朝風や赤く染まれる鳥爪

運動会得手不得手みて徒競走

窓辺にて眠気のみし秋うらら

秋うらら東京タワーくつきりと

絵手紙の変はる彩り冬近し

十三夜見えては隠れ雲の間に

口笛の蒼く染まるや秋うらら

旅支援勧誘のピラ秋うらら

犬を抱き散歩する女秋うらら

赤い羽根光る宰相記者会見

互選

谷沈む霧の動きは龍のごとく

(3票)

岩松忠子

〔決定事項・連絡事項〕

・次回吟行 11月22日(火)

大宮公園周辺

(大宮公園・氷川神社・盆栽町カエデ通り)

大宮公園駅前に10時集合

句会場所…寿能町一丁目集会所(大宮公園駅前)

12時より入れます

句会は13時より開始。

・今回は10名出席(欠席…鈴木、八千代)。

(小林健一郎記)

